

上越教育大学研究プロジェクト 終了報告書（若手研究）

研究代表者 所属・職名 保健体育・助教

氏 名 長谷川 晃一

研究期間 令和3年度

研究プロジェクトの名称	現代的なリズムのダンスにおけるリズムの取り方に関する実践的研究
研究プロジェクトの概要	<p>本研究では、現代的なリズムのダンスにおいて最も基礎的な動作であるダウンによるリズムの取り方に関する効率的・効果的な指導方法について検証することを目的とした。</p> <p>本研究の特色は、これまで手付かずであった基本動作の効果的・効率的な指導方法の検証に着目している点にある。また、研究対象者を抽出し、特別な時間を設けて指導を行うのではなく、申請者が受け持つダンスの授業を研究の対象とすることで、直接、実践に生かせる指導方法を提示することができる。この研究により、基本的なリズムの取り方を習得することが可能となり、それを応用しながら振り付けを工夫していくことで、現代的なリズムのダンスの本来のねらいである「リズムに乗って全身で踊る」ことを具現化できる。</p>
研究 成 果 の 概 要 ※申請時にチェックした「取組課題」との関連とその成果も明記すること。	<p>本研究では、現代的なリズムのダンスにおける最も基本的な動作であるダウンについて、学習の手順を仮設的に設定し、授業実践する。そして、授業実践の中では、様々な学習者の動きの感じ（動感）に合わせて指導し、その事例から効果的・効率的な指導方法の構築を目指した。</p> <p>指導対象者は、本学で2021年度にダンスを受講している大学2年生および大学院生であった。指導期間は令和3年6月～9月の計5回であり、結果に対する検証期間は令和3年9月～12月であった。5回の授業では、iPadで学習の様子を撮影し、必要に応じてプロジェクターや大型モニターで投影しながら動作の即時的なフィードバックを行った。また、授業後は有効なコツや助言について振り返りシートに記録させた。</p> <p>その結果、設定した学習順序により、約8割の学習者が短時間で目指した動きを達成したのに対し、数名の学習者に上半身と下半身の動きが連動しないという特徴的なつまずきに陥った。そこで申請者は、学習者がこれまで実施したことのありそうな目標の動きと類似した動き（アナログン）を引き合いに出しながら指導をすることで、つまずきが解消された。この事例から、仮設的に設定した学習順序をより実践的な学習順序に改変することができた。</p>
研究 成 果 の 発 表 状 況	令和3年10月23日（土）の新潟県体育学会令和3年度大会で研究発表 令和3年12月に新潟体育学研究第40巻に論文投稿をし（掲載可）
学校現場や授業への研究成果の還元について	中学校や高校の学校現場では、保健体育教員であってもダンスを苦手とする教員が多く、基本動作を指導することも難しいと考えられる。そこで本研究において、ダンスを苦手とする教員と同様の立場である筆者が実践的に検証した指導手順を提示することで、学校体育におけるダンスの授業が少しでも充実することを期待したい。